

ヒト遺伝子研究の意義を学びながら、倫理の問題を考える

昨年5月から、宮城と岩手の被災地を対象として、遺伝子と環境と健康状態を調査する東北メディカル・メガバンク事業（ToMMo）が東北大学や岩手医科大学によって行われています。

国や大学は、最先端の研究を復興に役立てるとしていますが、遺伝子研究は高度で専門的な分野であり、その進め方や倫理的な問題を指摘する声があります。

今回、東北メディカル・メガバンク機構からも参加協力いただき、京都大学の長浜市でのゲノムコホート研究の先駆的経験報告、生命倫理の専門家の意見などを交えて、広く県民的な議論を行う機会を持つことに致しました。ご来場いただきますようご案内いたします。

企画1

シンポジウム

2014年8月2日[土] 14:00-17:30

参加費
無料

アエル21階 ホールA-2研修室（青葉区中央1-3-1 仙台駅西口徒歩2分）

●シンポジスト

『ToMMoに対する批判』

若林クリニック所長 水戸部秀利

『長浜コホート研究から』

京都大学附属ゲノム医学センター長、教授 松田文彦

『ヒト遺伝子研究の倫理的課題』





東京財団研究員 ^め橋島次郎

『ToMMoについて』

東北大学ToMMo三世代コホート室長、教授 栗山進一

主催：フォーラム実行委員会

呼びかけ人：尾崎恭一（埼玉学園大学教授）、城戸良弘（大阪大学名誉教授）、黒須三恵（東京医科大学教授）、西山勝夫（滋賀医科大学名誉教授）、宗川吉汪（京都工芸繊維大学名誉教授）、西郡光昭（元宮城県保健福祉部長）、野呂圭（弁護士）、北村龍男（宮城県保険医協会理事長）、吉中文志（京都市民連中央病院院長）、宮沼弘明（宮城県民主医療機関連合会会長）、佐立昭（石巻市住まい連事務局）、大森節子（石巻市元保健師）、遠藤恵子（気仙沼市 看護師）、末永恵子（福島県立医大講師）、水戸部秀利（若林クリニック所長）、村口至（元坂総合病院院長）

協賛・後援：東日本大震災復興支援みやぎ県民センター、東北大学メディカル・メガバンク機構（ToMMo）、日本科学者会議、東北地方医療・福祉総合研究所、非営利・協同総合研究所のちとくらし、宮城県民主医療機関連合会、宮城県保険医協会、日本科学者会議宮城支部、宮城県高等学校障がい児学校教職員組合、自由法曹団宮城県支部、 河北新報社、朝日新聞仙台総局、読売新聞東北総局、毎日新聞仙台支局、 TBC東北放送、 仙台放送、 MYKテレビ、KHB東日本放送

連絡先：東北地方医療・福祉総合研究所
多賀城市下馬一丁目10-6 TEL 022-361-5674 FAX 022-361-5677

企画2

市民のための基礎学習講演会「ヒト遺伝子研究と生命倫理」

2014年8月3日[日] 10:00-13:00

参加費
無料

アエル21階 ホールA-2研修室

●講師

『ヒト遺伝子研究の現状と展望』

京都大学附属ゲノム医学センター長、教授 松田文彦氏

『生命科学の倫理的諸課題』

東京財団研究員 ^め橋島次郎氏

主催：東北地方医療・福祉総合研究所、日本科学者会議医の倫理研究会

連絡先：多賀城市下馬一丁目10-6 TEL 022-361-5674 FAX 022-361-5677